

令和6年度 第4回学校運営協議会

日時：令和7年2月19日（水）

10:00～11:30

出席者	A委員：学識経験者	B委員：公民館代表
	C委員：企業関係者	D委員：福祉関係者
	E委員：福祉関係者	F委員：福祉関係者
	G委員：医療関係者	H委員：元PTA代表
	I委員：現PTA代表	J委員：本校校長

オブザーバー参加：副校長2名、事務長、総括教務主任、小学部代表、中学部代表、高等部代表、寄宿舍代表 計18名

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 日程説明（菅原副校長）
- 4 教育活動の経過報告（菅原副校長）  
学校評価の結果について（奥村副校長）
- 5 熟議  
「気仙光陵支援学校の可能性を見つきたい！」の取り組み等の進捗状況
- 6 委員の皆様から
- 7 諸連絡  
次年度の運営協議会について（菅原副校長）
- 8 閉会

1 開会

2 校長挨拶（要約）

本日はお集まりいただきありがとうございます。先週の校外作業製品販売会では、たくさんの方に作業製品を購入していただき、生徒たちの励みとなりました。このような活動が、日々の教育活動につながり広がりになっていると感じています。本日は、前回の学校運営協議会から皆さまのご助言を生かして取り組んだことを報告します。また、学校評価の結果も報告いたします。未来に繋がる学校運営にご助言いただきますようお願いいたします。

3 日程説明

#### 4 教育活動の経過報告（菅原副校長）

別紙にて説明

学校評価について（奥村副校長）

学校評価資料により説明

G 委員：職員への質問で「働き方改革の取り組み」に対する回答が低いが、質問が抽象的ではないか？具体的に質問することで、回答が変わってくるのではないか？

副校長：おっしゃるとおりである。分掌業務なのか教材準備なのか、具体的に質問することで改善点が見えてくると思う。

F 委員：「働き方改革」についての回答は、学部によって結果が違うのか？進路指導の観点から、高等部の方が忙しいイメージがあるが。

副校長：今回のアンケートは、教諭、寄宿舎指導員、その他の分類で回答してもらったので、学部ごとの結果はわからない。先程の質問も踏まえ、「働き方改革」について別にアンケートを取ることも考えたい。

A 委員：高評価が多く、学校関係者としてうらやましい限りである。一つ気になるのは、職員の自由記述にある「生徒に対して、人権を尊重した関わりを考えたい」という記載があるが、どのように考えているか？

副校長：一人の意見とは言え、このように記述してくれることはしっかりと受け止めたい。改めて考える機会と捉え、児童生徒の人権を尊重した教育活動を展開したい。

B 委員：寄宿舎に対する高評価は、安心して宿泊できることの指標である。また、保護者の自由記述で、「何事も迅速な対応でいつも助かっています」とあり、保護者が悩む時間が短くなり、信頼感に繋がっていると感じる。

G 委員：保護者の自由記述にインフルエンザワクチン接種の記述があるが、点鼻型インフルエンザワクチン接種は2週間程影響が出る。障がいに応じて、注射によるワクチン接種ではなく、点鼻型を選択することがある。

#### 5 熟議

「気仙光陵支援学校の可能性を見つけたい！」の取り組み等の進捗状況  
別紙資料を用いて説明

F 委員：これからの方向性は出ているのか？

副校長：まだ出ていない。

F 委員：状態像ができています。フレームワークの中で、ロジックモデルに向かっていけるといいのではないかと。

G 委員：このような事業をするときに、期待できる結果を仮説でもいいので立てておくのがいいのでは？目標は結果なのか、スローガンなのか考えるべきである。目標とは個々で、結果とは繋がらないかもしれない。サッカーのゴールと同じで、ターゲットになると狭くなる。どういうゴールを設定しないといけないのか、どういう目標なのか。実現できるかどうかは、ゴール設定によると考える。

副校長：おっしゃるとおり、どういう結果になるのかも重要である。

G 委員：医学的な観点からいうと、「これが課題だから、こういうことをして、このような結果になりました」となる。結果設定による。

C 委員：なぜ、心理的安全性というワードが研修会で出てきたのか？

副校長：講師の方が、否定しないで話を聞くことが大切だと考え「心理的安全性」というワードを提示したのかもしれない。実際、研修会で活動を行う際、「人の話を最後まで聞いてください」というルールを設定して始めていた。

E 委員：校内外の取り組みの仕分けに関して「効果が高く実現性が高い」から実行するのか？

副校長：まだ、仕分けするという作業しかしていない。

E 委員：なぜ、仕分け方法を、①実現性が高く効果も高い ②実現性は高いが効果は低い ③効果は高いが、実現性は低い ④実効性も効果も低い の4つに分類したのか？

副校長：今回は、自分たちで仕分けをするという「仕分けの仕方」を学んだところである。

F 委員：具体的に言うと、小学部の「児童が認められる学校」とは何をもって認められるのか？ここから、抽象から具体、定性から定量で考えていくとよい。また、学部間のギャップもあるようだ。

校長：例えば「立根川美化活動」については、ただ実施するのではなく、実際に生徒が立根川近くで花見をしてから、後日美化活動することで、生徒にとっても美化活動の意味合いが変わってくる。教育活動の付加価値を上げることには、見直しの視点が必要である。ただ地域で何かするのではなく、「質のよい学び」となり、教育活動や児童生徒の成長に繋がるのが大切である。

B 委員：地域の方と先生方が話し合って行事を推進しているが、その話し合いに生徒が関わることがあってもいいのではないか？ピーマン交流も事前に生徒と話し合いをして実施したい。

校長：本校には年に2回2週間の実習がある。その際学んだ除草作業の技術を、立根川での活動で披露することとすることができる。ピーマン交流も同様に、実習の成果を生かしたい。

B 委員：「ピーマン味噌を作る」という考えもある。生徒たちと収穫したピーマンを使って味噌をつくるのはどうか。

## 6 委員の皆様から

A 委員：第三者の方を入れて見通しが立った。しかし、まだ一部の職員しか話し合いに参加しておらず、職員全員が同じ土俵に立っていない。これからどのくらいの時間がかかるのか、またどのように展開していくのか。

校長：今回は、これからの学校をつくりたいという意欲がある職員が参加した。どのようにシステムとして今後形成するのが課題である。今回の取り組みをとおして、職員のやる気を引き出す機会を設けていなかったと反省している。この取り組みは、来年度いっぱいばかりだろうか。しかし、今できることはやっていく。今後は学校の教育課程を考えなければならないのか、既存のモノの見直しなのか、検討したい。

B 委員：物事を始めるときはエネルギーが必要だが、実践の時はスツと行えるものである。

C 委員：今後の実践が楽しみである。

D 委員：生徒たちの利益を考えていいものにしてもらいたい。自分自身は、今まで座学で学んできたので、この取り組み自体が新鮮である。目標を掲げるだけではダメで、その先が大切である。

E 委員：短期間で職員の見解を取り入れていることが評価できる。学校評価も高い。実はもっとやれているのではないかと思う。今できていることは何なのか、今までやってきたことへの分析もいいのではないか。また、働き方改革については、関係機関で関わり助かっているので、それを先生方に伝える機会があればと思う。

F 委員：学校運営協議会に数年間関わり、情報が「見える化」している。葛藤しているところも見させてもらっている。今後も応援したい。

G 委員：国際的な障害者権利条約は周知されているのだろうか？40年前の医学教育ではなかった。医師になっても、内容まで振り返ることはあまりなかった。支援の本質を見失うことがあるが、ここにはきちんと合理的配慮として提示してある。「私たちのことを私たちのことなしに考えないで」とあるが、この会議も当事者（子どもたち）がいない。子どもがどのように感じるか、支援が支援という名の圧迫にもなる。支援の本当の本質を考える。職員の満足や保護者の満足ではなく、児童生徒の満足を。本質を踏み外さないようにしたい。医療も教育も本質を。

H 委員：学校評価において、保護者も生徒も満足していることがわかった。先生方が忙しい中、外部と連携して取り組んでいることがわかった。

I 委員：在校生の保護者として、毎日学校に行くのが楽しいと言ってくれるのがうれしい。運営委員会として学ぶことが多かった。

校長：ありがとうございました。学校評価の結果を踏まえ、令和7年度も令和6年度の学校経営方針を継続したい。手応えのあること、小さい結果が出ることを継続したい。働き方改革は、よい教育活動にするために様々精選することと考えている。本校の学校運営協議会は、他校から視察の依頼があり、委員の皆さまの活発な意見交換が称賛されている。今後ともご協力いただきたい。

## 6 諸連絡

今後の運営協議会について

校長：本校の学校運営協議会は5年目となった。1年目はコロナ禍のため書面開催で実施し

た。他校は年間2・3回のところ本校は4回実施した。現在のテーマで来年度まで熟議を継続したい。今後も委員として継続して見守っていただければありがたい。他校もどのように運営していくか検討しているようだ。一度運営委員会自体を振り返ることが必要とも考えている。令和7年度に検討し、令和8年度に新たにスタートとしたい。

## 7 閉会